

初期消火の 住民参加の

11月26日、山口県と山口県消防協会の主催による大で行われました。防災無線による緊急一斉放送などで者及び地区住民の参加のもと、各種演習が予定通り演技などが繰り広げられました。この演習に参加して

▲東大坊付近での演習



▲幼年消防クラブ員による演技

消防署員 ▶
による消火
訓練



▲日本赤十字社山口県支部による救急法講習

◀駅通りでの避難訓練



爆竹の音を合図に始まった訓練。バケツを持って走る人、消防車・救急車のサイレンの音、現実さながらの演習でした。私は避難者になり、警察官の指示に従い赤十字の看護婦さんに付添われ、担架に乗せられ毛布にくるまり、ベルトをしめて、「痛い所はないですか、寒くはないですか」と聞かれ、現在の自分の立場と訓練の重さを痛感しました。そしてやっとの事で役場に着き血圧測定等を済ませましたが、その間救急隊の規律正しい号令による鋭敏な動作に敬意を覚えました。

あってはならない火災ですが、日頃から心の準備をし、大事の場合自分自身の身の振り方等、よく心して置く事の大切さを、身を持って会得した一日でした。



(駅通)
梅本八千代

日頃からの
備えの大切
さを学ぶ